

海外での主要なロボット競技会

	主催	規模	概要
ものづくり分野			
EuRoC (European Robotics Challenges) (2014年から募集開始、2017年に決勝予定)	EuRoCコンソーシアム(大学、企業など9団体からなる)	ヨーロッパの100以上のチームが参加。3つのステージでふるい落としや新規参加を経て、6チームがファイナルステージへ	研究者・Sier・エンドユーザーで構成されたチームが、3つのカテゴリ(再構成可能な製造セル、ショップでのマニピュレーション、ドローン等による監視)にエントリーし競技を行う。
生活支援分野			
RoboCup@Home	RoboCupの1競技として開催	10カ国・地域20チーム	ロボットがキッチンやリビングルームなどの家庭環境で、ロボットが様々な課題(人の顔と名前を覚えて挨拶、リビングのごみを片付けるなど)をこなし、その精度を競う。
災害対応分野			
DARPA災害対応ロボティクスチャレンジ (2015年のみ)	アメリカ国防高等研究計画局(DARPA)	5カ国・地域23チーム	災害対応ロボット開発の促進を目的とし、設定したタスクをロボットに課し、得点とタイムを競う。2013年に予選会が行われた。
RoboCup Rescue	RoboCupの1競技として開催	実機リーグ: 6カ国・地域8チーム シミュレーションリーグ: 9カ国・地域19チーム	実機リーグ: 災害現場に見立てた競技場で、遠隔操作や自律型のロボットによって調査を行い、その精度を競う。 シミュレーションリーグ: ソフトウェア上のシミュレーションにより、バーチャルにレスキューロボットが災害救助を行う。
euRathlon (2013年より2015年まで毎年、次回は2017年)	euRathlon Project (funded by EU)	ヨーロッパから16チーム	災害対応に関連するロボットの競技会で、陸・海・空でのアウトドア環境におけるロボット競技を行う。

(参考)自動運転			
DARPAグランドチャレンジ (2004、2005年)	アメリカ国防高等研究計画局(DARPA)	米国のチームのみ 2004年 15チーム 2005年 43チーム	200km以上の未舗装のコースを無人自動車であうカーレース。
DARPAアーバンチャレンジ (2007年)	アメリカ国防高等研究計画局(DARPA)	米国のみ53チーム	96kmの市街地に見立てたコースを、他の車列や障害物に対応し、カリフォルニア州の交通規則を守りながら走破する無人カーレース。

(参考)分野が特定されないロボット競技会			
ABUアジア・太平洋ロボットコンテスト (2002年より年1回)	アジア太平洋放送連合(ABU)	17カ国・地域18チーム	競技内容は開催国の放送局が行う。2015年はバドミントン。
RoboSub (1998年より年1回)	AUVSI財団	10カ国・地域37チーム	大学生ら若手のための水中ロボット開発の実践の場として、水中・水上でロボットに移動や運搬などのタスクを自律的にこなさせる。
RoboCup (1997年より年1回)	The RoboCup Federation	40カ国・地域500チーム(予選含む)	2050年にワールドカップ優勝チームにロボットで勝つことを目的としたヒューマノイド型ロボットによるサッカー大会。ロボットサイズ別やバーチャルなど複数のカテゴリで競う。
RoboGames (2004年より年1回)	アメリカロボット工学協会	20カ国・地域214チーム	マウス、格闘、ロボット相撲など50以上の種目を行う総合的な競技会。